

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成塾
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話:(075)871-0374 FAX:(075)882-3777

2019年
10月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

中国、春秋時代の兵法に学ぶ

～今も語り継がれている『孫子の兵法』～



歴史好きでなくとも、『孫子の兵法（そんしのへいほう）』という言葉を、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。

孫子とは中国の春秋時代（紀元前 722 年～473 年）に孫武（そんぶ）という兵法家が記した、全 13 篇からなる兵法書「孫子」のことを指します。この孫子は有名な歴史家、司馬遷の『史記』にも取り上げられるほどです。

今から 2,000 年以上前に書かれた、いわゆる「戦いにおけるセオリー」をまとめた孫子の兵法は、なぜ未だに語り継がれているのでしょうか？

それは戦いだけでなく、現代社会においても当てはまる内容が非常に多いからなのです。

マイクロソフトの創設者ビルゲイツ氏、ソフトバンクの孫正義氏、経営コンサルタントとして書籍を多く出版している大前研一氏などなど、みなさん孫子の兵法を愛読されていたそうです。はたして、孫子の兵法とはどういったものなのでしょう？

孫子の兵法、全 13 篇の構成

孫子の兵法を愛読しているソフトバンクの孫正義氏は、以前はツイッターでこう呟いていたそうです。

『こうした孫子の考え方って、今を生きる人にも通用すると思いますし…むしろ選択肢がたくさんある今の時代だからこそ、知っておいた方がより納得感のキャリアを歩めると考えています。』

全 13 篇の構成を簡単にまとめると以下のようになります。

1. 計篇	戦争を行う前に自国と敵国の状況を分析すること。
2. 作戦篇	自軍の資源（人・物）を把握したうえで、軍の戦略を考えるべき。
3. 謀攻篇	実際の戦闘よりも計略によって敵に勝つべき。
4. 形篇	自軍の損害を最小限に抑え、敵軍が負けるのを待つ。
5. 勢篇	個々の能力ではなく、組織の勢いの力を重視すること。
6. 虚実篇	敵軍の行動を自軍の意図通りに促すこと。
7. 軍争篇	敵軍より早く、戦場に到着すること。
8. 九変篇	戦況によって臨機応変に対応すること。
9. 行軍篇	軍の組織体制の重要性。
10. 地形	戦場の地形に合った戦い方をすべき。
11. 九地篇	戦いに緩急を意識して、パフォーマンスを最大化する。
12. 用間篇	情報を得ることが重要。
13. 火攻篇	戦争するべきかどうかは慎重に考えるべき。

興味のある方はぜひご自身で本を読んでみてください。「孫子の兵法」で調べると、かなりの種類の本が出版されています。（ちなみに、教室にも子供向けの『こども孫子の兵法（日本図書センター）』という本を置いていますが、誰も借りてくれません・・・）

今回はこの中から、育脳寺子屋の取り組みや考え方に通ずる部分や、大人・子供に関わらずこれからの人生で役立てることができそうな部分を抜粋し、紹介しようと思います。

かれをしりて己をしれば、百戦して殆うからず

大意：相手のことも自分のことも知っていれば、100回戦っても負けることは無い。

孫子の兵法の中でも最も有名で、スポーツの場面などでもよく使われる一説です。戦いに挑む際の心構えを説いた言葉なのですが、「敵の実情を知らず、味方のことだけを知っている状態では、勝つこともあるが負けることもある。そして敵のことも味方のことも知らなければ、必ず負けてしまうだろう。」と付け加えられています。

まず勝つべからざるを為して、以て敵の勝つべきを待つ

大意：まず守りをしっかり固め、敵が弱点をあらわして勝てる態勢になるのを待つ

自分達の良い状態や勝つための条件を整えることはできても、必勝の体勢にできるかどうかは相手次第ということです。隙のない相手であれば、いかに自分達が勝つための条件を整えたとしても、必勝の体勢にはなりません。敵に弱点が生まれるのを待ち、あるいはそうなるよう仕掛ける必要があります。言い換えれば「時期を待つ」ということです。

迂を以て直となし、患を以て利と為す

大意：回り道をすることが直進することとなり、損をすることが利益になるのである

ビジネスでも一見、損をしてしまうような選択こそ、勝利への道であることが多々あります。勝利を急ぎ、目先の利益を急ぐ人ほど多くの利益は得られません。例えば、最初は儲からなくとも、仕組みづくりをしっかりした人は最終的には仕組みによって稼ぐことができますが、すぐに収入を得ようとすれば、時給で働く考え方になり多くは稼げません。「損して得取れ」という言葉とよく似た意味です。

先に戦地に処りて敵を待つ者は佚し、後れて戦地に処りて戦いに趨く者は勞す

大意：先に戦場に到着して敵を待ち受ける軍はゆったりとしているが、後から戦場に入ってきて戦おうとする軍は疲れているものである。

何事も後手に回ると苦勞が多くなってしまうので、早めから行動しようという意味です。時間が無いとできることは限られますが、早めから行動していれば直前まで相手の弱点を研究したり、作戦をたてる時間が持てるので、勝つ可能性が上がるのです。

善く戦う者は、其の勢は陰にして、其の節は短なり

大意：地道な努力で、いざという時のために力をためておく

力を最も効果的に引き出す方法については、弓をぎりぎりまで引いて、タイミングが来たら一気に放つイメージです。そのタイミングがくるまでは、地道に力を蓄える必要があります。

智者の慮は、必ず利害に雑う

大意：優れた人は、一つのことをプラスとマイナスの両方から考えている

成功すれば「自分はすごい」と思い、逆に失敗すると「自分なんかダメだ」と思ってしましますが、それでは物事がうまくすすんでいきません。何事にもプラス・マイナスの両面を併せ持っているのです、その両方に目を向ける心構えが必要です。

能なるもこれに不能を示し、用なるもこれに不用を示し

大意：能力はむやみに自慢せず、ここぞという時に静かに発揮しよう

「自分はこんなに能力がある！」と自慢していると、周りに嫌な印象を持たれますし、それを見たライバルが今まで以上に努力をし、追い抜かれる可能性もあります。「能ある鷹は爪を隠す」ということわざもありますが、自慢したい気持ちはぐっと我慢をして、ここぞという時に能力を発揮するようにしましょう。

善く戦う者は、人を致すも人に致されず

大意：戦いの上手い者は他の人の意見に振り回されず、自分で決断することができる。

私達は色々な人の影響を受けて成長していきます。たとえ自分が信頼できる人の意見だったとしても、何も考えずにそれを受け入れるのは良くありません。なぜなら、周りの人は自分とは生まれも育った環境も違う人なので、その人の一番良いと思う方法が自分にとっても一番良い方法だとは限らないからです。

自分とは違う価値観や考え方に触れることはとても大切です。あとはそれを踏まえ、どのような判断を下すのかは自分次第なのです。自分のすべきこと、自分の進むべき道を決めるのは自分自身、自分の未来を切り開くのも自分自身なのです。

・ ・ こうして全体の内容を見てみると、孫子の兵法には「勝つ方法」というよりは「負けない方法」が書かれています。そして、全体的に一貫して感じたのは「目先の利益ではなく長期的な繁栄を目指して、やるべきことを肅々とやる」ということです。

こういった点が現代社会にも活かせるところが、ビルゲイツ氏や孫正義氏などの偉人を虜にしている所以なのだと感じました。

そしてその考え方は、現代の子供たちに必要な教育にも大きく重なります。

「孫子の兵法」で考える、教育のあり方

勉強とは本来 社会に出てから困らないよう に、取り組むものです。

ただ、社会で必要とされるのは「勉強して得た知識」ではなく、絶え間なく変化を続ける時代に対応するための『自ら学び成長する力』です。

なので学生の間は、目先の点数・結果を追い求めることよりも、教科の勉強を通して「自ら学び成長する力」を養うことが一番重要なのです。(その結果、成績も良ければ言うことはありませんが)

しかし最近では「良い成績を取るため」「良い進路を実現させるため」が勉強の目的になっているように感じます。決してそれがいけないと言いたいわけではなく、それを目的にしてしまうと、先述の『自ら学び成長する力』の部分伸ばしにくいのです。

「良い成績」「良い進路」を目的とした場合、より短い時間でより高得点を取れるように効率を重視して、多くの塾や予備校は 徹底的に無駄をそぎ落とした授業や教材 を準備し、提供します。

しかし、無駄をそぎ落とした用意されたサービスを楽しんで結果を出すことに慣れれば、『自ら学び成長する力』はあまり伸ばせません。なぜなら、その力を伸ばすには多くの無駄や失敗が必須 だからです。無駄や失敗を経験する、次はそうならないために工夫する、その繰り返し人が成長させてくれるのです。

そして何よりも、「自ら学び成長する力」は知識のインプットだけではなく、自分自身をよく知ることが重要になってきます。

自分はどんな所が弱点なのか、どのような勉強法・勉強量が一番自分に合っているのか、どのくらいのペースで復習するのが一番効果的か・・・といったことを、失敗を繰り返しながら、自分自身で見つけ出すことが一番重要です。

MACの中学部の生徒は、中3になって急に成績が大幅にアップする子が多いのですが、それは上記のようなプロセスと、自分と向き合うことを繰り返してきた成果が、受験生になった頃に表れるのです。まさに「力いっぱい引いた弓を、いざという時に一気に放つ」イメージです。

社会では、学生の時のように手取り足取り、できるまで教えてくれる環境はありません。昔は社員教育に時間を割く余裕がありましたが、最近ではその余裕もなく即戦力として期待されます。

そんな状況の中で、上記のように「自分をよく知っていて、自ら学び成長する力」を持っていれば、誰かに仕事を手取り足取り教えてもらわなくとも「先輩の姿を見て」「様々な失敗から学んで」「自分で調べて」成長できるので、社会で困ることはないのです。

このようにして比べてみると、育脳寺子屋の考えは孫子の兵法と似通った部分が多々ありました。

ぜひお子さんには、目先の点数・成績をすぐに求めるのではなく、もっと先を見据えて取り組ませてあげてください。親が点数や成績をガミガミ言うと、子供は先を見た取り組みができなくなります。

育脳寺子屋では安全に、たくさんの失敗をさせてあげるつもりです。その一見無駄に思えることから多くのことを感じ、学び、自身と向き合い、自分を知った上で、これからどうしていくかを考えてもらっています。

どうか「成績が良くない＝努力していない」ではないことをご理解頂き、長い目で我が子の成長を見守って頂きたいと思えます。

あなたは「自分」のこと、よく分かってる？

他人の短所や長所はよく見えますが、自分のことは意外と見えないものです。
あなたは自分のこと、よく分かっていますか？

「自分」と向き合い、「自分」を理解する

戦の戦い方をまとめた「孫子の兵法」という、今から2,000年以上前に書かれた本は、現代でも仕事や教育に役立てられる内容だとして、多くの有名人や経営者が愛読しています。

その中に「相手のことも自分のことも知っていれば、100回戦っても負けることはない、相手のことを知っていても自分のことを知らなければ、勝つこともあれば負けることもある。両方知っていなければ勝つことはない」と書かれています。これは勉強でも同じことが言えます。

みなさん、新しい知識を勉強（インプット）することは一生懸命ですが、「自分はどんな所が弱点なのか、どのような勉強法・勉強量が一番自分に合っているのか、どのくらいのペースで復習するのが一番効果的か」といったことを、自分自身で見つけ出すことのほうが重要です。

あなたは自分のこと、よく理解していますか？自分自身と向き合い、よく理解して、100回戦っても100回負けない人になってください。



「相手のことも自分のことも知っていれば、
100回戦っても負けることは無い」

孫武 ～中国、春秋時代の兵法家～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。